

**【公表】事業所における自己評価総括表**

事業所名	児童ルームたっちキッズ 児童発達支援			
保護者評価実施期間	令和 7年 9月 1日 ~ 令和 7年 9月 30日			
保護者評価有効回答数	対象者数	25名	回答者数	20名
従業者評価実施期間	令和 7年 9月 1日 ~ 令和 7年 9月 30日			
従業者評価有効回答数	対象者数	8名	回答者数	8名
総括表作成日	令和 7年 11月 18日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・拡充を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に 行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・経験豊富な専門職のスタッフが在籍している。	・様々な療育場面で、それぞれの専門職スタッフが意見を出し合い、多方面からの視点をもとに、日々の活動の立案を行っている。	・療育の質の向上を図るために、研修会に参加したり、定期的に職員間で研修を実施し、専門性を高めていく。
2	支援の統一を図るためのこまめな情報共有。	・保護者の方へは、療育内容について、写真を添えて様子をお伝え。保護者の方から頂いた情報などは、必ず朝礼・終礼時に報告し、休みのスタッフへも漏れのないよう伝達を行っている。	・さらに利用児の様子を把握し、支援につなげるため、関係機関（幼稚園・保育園）などとの情報共有も積極的に行っていく。
3	・個々の特性に合わせた柔軟な対応。	・個々の特性を把握し、必要であれば、集団の中でも個別の支援を検討したり、日々創意工夫を重ねている。 (個別での対応・スケジュール・カームの部屋の使用など)	・様々な療育機関の支援方法を参考に、当事業所での療育にも取り入れていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組みや 工夫が必要な点等
1	・地域交流の機会が少ない。	・時間帯や年齢、個々の特性などを考慮した時に、交流することへの難しさがある。	・事業所に来て頂き、地域の方に何かを教わるなどの、多世代交流なども検討していく。
2	・保護者交流の場が少ない。	・保護者交流会として、親子レクレーションを開催しているが、親子での参加型になっており、保護者同士の交流は少ない。	・親子レクレーションとは別に、勉強会や保護者同士で日頃の悩みを相談できるような場を作れないか検討していく。
3	・療育スペースの狭さや構造上の問題。	・幼児用のトイレや手洗い場がない。構造上、広々とした空間での療育ができない。	・構造上の問題なので、今ある空間で必要な療育が行えるよう人・物的工夫や、打合せを行い環境調整・導線を整えていく。